
記憶の固執

ヒビキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

記憶の固執

【コード】

N85340

【作者名】

トビキ

【あらすじ】

魔法使いと言った少年と、帽子を被った悪魔と呼ばれた少女の物語

0 青

私の、彼に関する記憶はあの場面から始まる。

見渡す限りの草原。柔らかに芽吹いた草のにおい。

見たこともない、綺麗な青海原。

空き地にぼうぼうに生えた草原しか知らない私には、まるで身に覚えがない。知らない。こんな、自然で、優しい場所なんて。

記憶は都合良く上書きされて、改竄されるものだ。けれど、やはりあんなところを他に見たことがない。

振り返ってみても、何故、私がそんな、名前も知らない場所にいるのかも解らないままだ。

覚えているのは、あの草原のただ中で、彼が蹲る私を見下ろしながら言った言葉だけ。

「初めまして！僕は君の魔法使い。

さあ、君の願いを教えてください？」

あの日、見知らぬあの場所で、私は私の魔法使いに出会った。

久屋坂月。

そっという名前の、魔法使い。

噂がある。

最近？いつ？どこから？

そんなことを問うのも馬鹿馬鹿しい噂だ。

そうと知っていながら、遊び半分、もしくは冗談交じりでその噂を実行する人間も少なくないという。それすらも、噂だ。

悪魔を召喚する儀式。

それが、真実、噂されるとおりに本当だというのなら。

誰もいない教室の中で、麻朝は携帯を弄る。

誰もいないのだからどこに座ろうとも変わらないはずだというのに、自分の席である窓から2列目、前から4番目に、いつも通りに座っていた。

音はしない。携帯は消音モードで、するのはわずかにボタンを押すときのカチカチという音だけだ。

メールを打ち終えて、パターン、と携帯を閉じる。閉じてすぐ、ちらりと横を見て、また視線を元に戻す。携帯を机の上に置く。

まるで待ち遠しい返信を待つように、じつとサブディスプレイを見つめた。

送ってもいないのに。

メールは書いた。宛先は不明。

一体誰に送るといふんだ。

届くかこんなもの。

誰が、私を。

こんな噂に頼り縋りつきたくなった自分が惨めで、麻朝は机に顔を伏せた。後頭部を暖める光が翳っていく様子さえ手にとるように

判る、夕暮れ。

教員がやってきて、帰るように促されて終わるだろうと思った、その矢先に。

聴いたことも無いメロディが鳴った。

驚いて顔を上げると、それは確かに自分の携帯だ。でも、そんな曲を入れた覚えはない。どこかで聞いたことも、ない。

夕闇を映しこむようなメロディ。橙から紫に、そして黒へと変わっていく空の色を思わせる曲が、夜になる手前で消える。

あまりに不可解な現象に、手に取ることさえ忘れていた携帯が、その時ようやくメールの着信を知らせていることに気づいた。

麻朝は、ぷっくりと膨らんだ自分の唇を噛む。

恐々と自分の携帯を取るなんて、馬鹿馬鹿しい。いっそ乱雑な手つきで、携帯を開いた。

一件のメール。本文も件名も空白。どこか送ってきたアドレスすらも空白だ。

悲鳴を上げそうになった麻朝の心を読んだように、直前で誰かが声を掛けた。

「来たよ」

静かな声に振り向く。教室の後ろの扉に誰かが立っていた。

同じ年くらいだろうか、十代半ばの少女だ。同級生だといわれても信じてしまいそうだったが、生憎麻朝には見覚えがなかったし、その少女は制服など着ていない。

飾り気のないTシャツの上からロングのパーカーを羽織り、スキニージーンズを穿いている、どこにでもいそうな小柄な少女だ。

頭にキャスケットを被っていることが特徴的といえば特徴か。

目深に被った、やはりどこにでもありそうなキャスケットから目を離せない。

ばくばくと脈打つ心臓を押さえるように胸に手を当てながら見ていると、少女は薄暗い教室の机の隙間をすりりと通り抜けて、麻朝の前に立った。

「初めまして、私はあなたの悪魔。
願いを叶えてあげるわ。」

あなたの《死んだ人の記憶》と引き換えに「

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8534o/>

記憶の固執

2011年10月6日18時59分発行